



愛知県の
産地の現状

🍁消費者ニーズをふまえた新品種開発や販売戦略策定には消費者の購買行動の調査が必要である。

購買時に重視する事項はアンケート調査によりデータ収集できるが、実際の購買行動は客観的データが収集しづらい。

※愛知農総試が新品種開発を行う主な園芸作物の産出額・栽培面積は、イチゴは産出額85億円・261ha、イチジクは産出額19億円・119ha（2019年度の統計データ）



農総試での
関連研究成果

🍁アンケート解析によりナシの果実に求める消費者の意識を把握した。

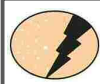
🍁テキストマイニングの技術を活用し、アジサイの品種に求める消費者の意識を把握した。



解決したい
困りごと

🍁実物を目の前にした時の購買行動をアイトラッキング(※)を活用してデータ収集することで、購買時の訴求ポイント（注視する頻度が高い位置、選択する時の視線の動き、注視する時間等）を解析したいが、計測機器を装着する従来の方式では収集できるデータ数に限りがある。

※アイトラッキング=ヒトの眼球運動を分析して視覚的注意等を明らかにする生体計測手法。



解決案

🍁**アイトラッキングデータ活用による品種開発と販売戦略**

アイトラッキングの活用として、装着方式ではなく設置方式（プライバシーを侵害しないよう個人を特定せずに売場で視線軌跡を計測）により消費者の購買行動の客観的データを収集し、新品種開発や販売戦略策定につなげたい。

担当者：研究戦略部・技術開発研究室・近藤貴士